

日本体育大学

令和8年度入学者選抜 【出題の意図・模範解答】

学部・選抜方式	児童スポーツ教育学科 児童スポーツ教育コース 総合型選抜 学部別選考方式 I 期
科目	小論文

【出題の意図】

- ・教師や指導者になるという将来を見据えて、大学での協働的な学びをデザイン出来るか。
- ・高等学校までの協働的な学びの経験などを踏まえ、大学で生じる可能性のある困難を予測出来るか。
- ・生じる可能性のある困難に対して受験者が実行可能な克服案を考えることが出来るか。

【模範解答】

児童生徒に協働的な学びを促すだけでなく、教師自身も「協働的な教師の学び」を実践することは重要であると考えます。同僚教師との対話や振り返りによって自分では気がつかなかったことに気づいたり、自分自身の考えを深めたりできるだけでなく、児童生徒に実感をもって協働的な学びを指導出来ると考えますからである。将来、多忙な学校教育現場で「協働的な教師の学び」を実現できるよう、大学入学後4年間では、自他を尊重した生産的なコミュニケーションについて学んでいきたいと考えています。

まず大学の講義や実技において教員によって設定されたグループ活動や討論がある場合は、積極的に自分の意見を述べることはもちろんであるが、発言する時間やまとめる時間などを意識し、指定された時間で協働的に意見がまとめられるようメンバーや活動の全体を俯瞰するようにしたい。そして自分や他者の意見の共通点や相違点を整理するなど、論理的に協働的な学びを進める方法も学んでいきたい。

大学の授業中に設定された協働的な学び以外にも、短時間でも自他を尊重した生産的なコミュニケーションを学ぶ機会はあると考えています。大学での部活動や学外でのアルバイトなど、多様な他者と協働する場面において、自分の意見を大切にしながらも、他者の意見も尊重し、より良い新しい考えが構築できるようにしていきたい。

私が上で述べたような学びの姿勢でいたとしても、私が協働を望む相手は協働的な学びに積極的ではない場合などが困難として想定される。協働相手を選択できない場合であっても協働が必要とされる場合には、相手の事情を尋ねて協働できる妥協点を探ったり、仕事や活動を分担することなどを提案したりして、自他を尊重した協働的な学びの実現をめざしたいと考えています。